

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

抗生物質・抗菌薬への薬剤耐性（AMR）対策

こんなことを思っていないませんか？



“かぜ”には抗生物質が効く



抗菌薬をもらおうと安心する



よくなってきたから抗生物質をやめよう



余った抗菌薬をとっておこう

“かぜ”の原因の多くはウイルスであり、
抗生物質・抗菌薬は効きません

抗生物質・抗菌薬は細菌を退治する薬です

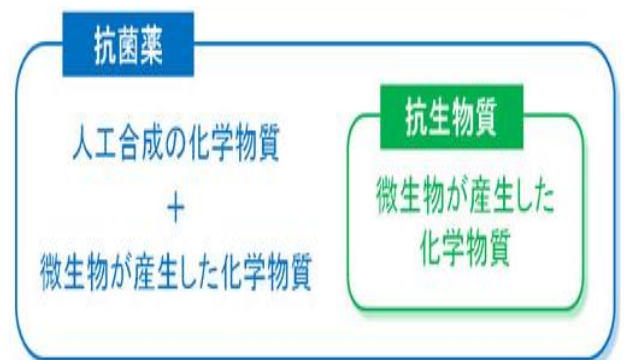
薬剤耐性（AMRはAntimicrobial Resistanceの略）とは、病原体が変化して抗生物質・抗菌薬がきかなくなることです。いま、世界中で薬剤耐性菌が増加しているため、医療機関において拡大防止に取り組んでいます。

抗生物質と抗菌薬の違いは？

抗生物質とは、病原微生物を殺す作用をもつ薬の中でも「微生物が作った化学物質」を指します。世界初の抗生物質であるペニシリンは青カビから発見されましたが、青カビは微生物の一つです。

その後、技術の進歩により人工合成で病原微生物に対抗するための化学物質を創ることができるようになりました。これは、抗生物質の定義である「微生物が作った化学物質」に当てはめることはできません。そこで、抗菌薬と呼ばれる言葉が登場しました。

現在では抗生物質や人工合成された化学物質を全て含めて、抗菌薬と表現されます。そのため、イメージとしては、抗菌薬という大きな枠の中に抗生物質が含まれるようになります。



抗生物質・抗菌薬は細菌の構造や増えていく仕組みのどこかを邪魔して効果を発揮します。たとえば、ペニシリンは細菌の細胞壁の合成を邪魔します。ヒトの細胞やウイルスには細胞壁がありません。そのため、ペニシリンは細菌のみを攻撃することができるのです。

このように抗生物質・抗菌薬は細菌の仕組みを利用した薬ですので、ウイルスが原因となる感染症には効果を期待できません。

細菌とウイルスの違いは？

細菌とは

目で見ることはできない小さな生物です。細菌は栄養源さえあれば自分と同じ細菌を複製して増えていくことができます。人の体に侵入して病気を起こす有害な細菌もいます。一方で人の生活に有用な細菌も存在します（納豆菌など）。人の体には多くの種類の細菌がいて、皮膚の表面や腸の中の環境を保っています。

細菌の感染によって生じる病気としては、「肺炎球菌による肺炎」、「結核菌による肺結核」「大腸菌による膀胱炎」、「サルモネラ属菌による食中毒」、「溶連菌による咽頭炎」などがあります。

ウイルスとは

細菌の50分の1程度の大きさで、とても小さく、自分で細胞を持ちません。ウイルスには細胞がないので、他の細胞に入り込んで生きていきます。ヒトの体にウイルスが侵入すると、ヒトの細胞の中に入って自分のコピーを作らせ、細胞が破裂してたくさんのウイルスが飛び出し、ほかの細胞に入りこみます。このようにして、ウイルスは増殖していきます。

ウイルスの感染によって生じる病気は「インフルエンザ」、「感染性胃腸炎（ノロウイルス）」、「 Dengue熱」、「エボラ出血熱」などがあります。一番身近な病気である「風邪（かぜ症候群）」も、ほとんどはいくつかの種類のウイルスが鼻やのどに感染することによって起こります。

肺炎や咽頭炎などは細菌もウイルスも原因になることがあるので、〇〇ウイルスによるウイルス性肺炎、△△菌による細菌性肺炎、などと呼んで区別しています。

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐには？

- ①感染症にかかり抗生物質・抗菌薬を必要とする機会を少なくすること
- ②感染症を周りに拡げないようにすること
- ③ウイルス感染などで必要のない抗生物質・抗菌薬を服用しないこと
 - ①②は日ごろから、正しい手洗いの徹底やアルコール消毒、マスクの着用、うがいなどが重要になります。

③は必要のない抗生物質・抗菌薬を服用すると、体内にいる細菌が耐性を持ち、効かなくなってしまいます。これまでは感染・発症しても適切に治療すれば軽症で回復できた感染症が、治療が難しくなって重症化しやすくなり、さらには死亡に至る可能性が高まります。特に、乳幼児や妊婦、高齢者、持病を持つ人など、免疫力の弱い人は要注意です。しかし治療で服用する際は、途中で止めたり、勝手に量や回数を変更しないで、用法・用量・服用期間を守りましょう。



私たちにできる対策とは

- 🟢 感染を防ぐために、日頃から手洗い・咳エチケットをする
- 🟢 医療機関などで、
 - ✓ 症状を医師に詳しく伝える ➡ 医師の正しい判断を助けます
 - ✓ 分からないことは医師や薬剤師に聞く ➡ 不安を解消しましょう
 - ✓ 量と期間を守って最後まで抗生物質・抗菌薬を服用する ➡ 耐性菌を防ぎましょう

出典：AMR 臨床リファレンスセンター（厚生労働省委託事業 2017年4月発足）

文責：ことぶき薬局 竹端